

小浜市北陸新幹線新駅周辺エリア基本計画策定業務 第2回策定委員会 議事要旨

令和8年3月13日 18:00～20:00

当日席順

事務局	地域・教育コーディネーター 村宮委員(Web)	市民代表 濱詰委員	事務局
	市民代表 鈴木委員	市民代表 芝田委員	
	市民代表 森下委員	土地改良協会 森田委員	
	市民代表 滝委員	(株)まちづくり小浜 青木委員	
	若狭おばま観光協会 原田委員	小浜市 PTA 連合会 安田委員	
	若狭青年会議所 吉村委員	小浜市農業委員会 松尾委員	
コンサル タント	男女共同参画ネットワーク 朝倉委員	小浜市区長連合会 朝日委員	
	小浜商工会議所 奥東委員	小浜市議会 下中委員	
	福井大学 川上委員	小浜市議会 藤田委員	
		福井県立大学 教授 松原委員長	

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 全体について

<質疑応答>

【一同】

- ・特に意見なし

4. 『小浜市新まちづくり構想』のアップデートについて

<質疑応答>

【委員】

- ・小浜に住みながら京都へ通勤とあるが、小浜の会社でも働いてほしい。企業の方もWSに入れてほしい。

- 企業が使える場として、越前たけふ駅周辺では村田製作所が立地しているが、地域に企業が来てもらえるようにしたい。小浜に通勤してもらえるように、地域の企業の意見も取り入れてほしい。

【委員】

- 20 年後というかなり先をイメージしなければならない。
- スマートシティなどのキーワードや、小浜ならではの持続可能性を探る必要がある。例えば歴史・文化をどのように内外に広げるか。京都に集まる外国人のインバウンドをどのように小浜に誘導するか。防災という観点もある。
- せっかくこれだけの歴史・文化があるのだから、しっかり磨き上げ、発信することが重要。

【委員】

- 若狭地域は日本の御食国のうちひとつ。若狭地域の玄関口としての特性を生かした整備が必要。歴史文化でいえば、高浜～美浜まで含め、小浜市は御食国の核として、若狭地域全体を照らすことが重要。周りを照らせば我々の足元も照らしていただける。

【委員】

- 広域をイメージするには、若狭湾も重要。若狭湾のセンターが小浜であり、回廊のようなイメージで捉えると、小浜がわかる。その中で、御食国としての食文化が重要。
- 古代からお水を送るのが小浜、受け取るのが奈良。お水を送るのが小浜とは知らない人が多い。広域的に古代からの関連性を見ると、すごい都市だったということをプレゼンすることが必要。

【委員】

- P12 の地図について、事業中であるが、県営産業団地なども予定している。広域の絵もあるとイメージしやすい。
- 観光目的に目線が行くことが多いかもしれないが、産業目的で何日か宿泊する人もこれから増える。京都など関西圏から通える範囲ということを示すような地図を作してほしい。

【委員】

- 農業関係者の視点から。最近、貨物新幹線も検討されている。人だけでなく、新幹線は物も運ぶ。三方の梅、嶺南の野菜、福井のレモンなどを運ぶのに新幹線を利用できるのではないか。東京方面にも、例えば災害時に北陸ルートで運ぶ必要がある場合など、そういった視点も重要になるのでは。検討材料に入れられるといいのではと思う。

【委員】

- 観光、工業、農業、水産業もある。

【委員】

- 小浜に居ながら、関西に通勤が広く可能になることに魅力を感じている。そういったことを関西圏により PR できるといいと思う。

【委員】

- 土地改良協会の会長をしている。
- 農業問題が近年生じている。
- 小浜市の人口は減少している。例えば人口の目標を持って、それに対して産業などの対策を考える必要があるのでは。
- 通年で観光振興するにはどうしたらよいかも重要。

【委員】

- 人口については、また市の人口ビジョン等から示してほしい。

【委員】

- P17 に示されている観光入込客数のグラフ、若狭町の値が小浜市より多い。どのような理由があるか。
- P20 新幹線新駅周辺は日本海の玄関口になる。若狭全体の魅力情報を発信するようなものが必要なのでは。

【委員】

- 観光の入込について、理由がわかる方がいるか？

【委員】

- レインボーラインの利用者が含まれていることが大きいと考えられる。また、この数値は特定の観光スポットを抽出した値であり、統計データを見る際は注意が必要である。

【委員】

- 若狭エリアの広域で見ていく、という視点が根底にあるといい。御食国などの文化が重要だと感じた。
- 防災拠点としての機能も重要。新幹線駅舎は高い位置に整備されるのであれば、市民がそこに逃げれば助かる、といったものになると良いと思った。

【委員】

- 第1回市民ワークショップの結果は、良くまとまっていると思う。市民目線、来訪者目線、地域に暮らすという視点が入っており、いい意見が出たのだと思う。
- 新駅において、JR 在来線との接続は考えられるのか気になる。それを前提に議論してよいのかどうか。

【委員】

- 4 月ごろに若者アンケート調査を実施とあるが、どのようなことを聞く予定か。
- 子どもに聞くと、そこまでまちづくりについて考えているわけではないので、新幹線ができたなら都会に行きたいなどの意見が多くなると思う。聞き方は工夫してほしい。ざっくりした聞き方ではなく、子どもたちが将来の小浜をイメージできるような聞き方として欲しい。子どもたちの多様な意見が出てくるような形になると良い。

【委員】

- 今回の計画に基づいたまちが 20 年後にできるが、その時にまちを使う、今の子どもたちの意見をできるだけみ取ることが重要。その子どもたちの意見をどうやって実現できるかを、専門の皆さんで考えることが重要だと思う。

- こういった会議では、小浜の歴史文化の発信などの意見が多くなるために、観光の情報発信などの話に寄ってしまいがちである。議論をする上では、できるだけ新幹線新駅周辺の話から軸がぶれないようにできると良いと思う。

【委員】

- 嶺南の玄関口という視点は大事であることに加え、嶺北との関係も変わるのではないかと考えている。それを踏まえて考えてほしい。

【委員】

- 福井県立大学に、4月から地域政策学部ができる。嶺南から来る方も増えるのではと期待している。

【委員】

- 第1回ワークショップ参加者26人の内、女性が3人。どのように選定したのか。

【事務局】

- 全体の枠は限られている中で、各地区のまちづくり協議会に、若い方や女性を積極的に推薦してほしいとお願いした結果である。

【委員】

- ワークショップで出た意見の中に、介護施設という意見もあり、良いなと思った。関西に住んでいる人の親が、小浜の豊かな環境で高齢者用マンションに住み、子どもが新幹線で通うなども考えられる。
- 越前たけふ駅は駅前に道の駅があるが、小浜は道の駅が近くに既にある。また、東小浜駅も近い。それらを活かせると利便性も高まるのでは。

【委員】

- 中学生の時、昭和48年に北陸新幹線が閣議決定され、大人になったら京都・大阪まで働きに行けると言われていたが、50年経ってしまった。20年後に向けて、きちんと積み上げて確実に実現できるよう進められると良い。政治も世界情勢もどうなるかわからない。

【委員】

- 人口の目標をどう考えるか。崇高な構想をもっていても人が増えないと実行に移せない。最低のラインと、高い目標ラインを持って進めるべき。
- 研究拠点という部分がキーワードとして薄いのではないか。県立大学もある、そこに関連した研究施設などもあると良い。

【委員】

- 20年後の話であるので、現在のイメージや構想は通用しないと思う。技術的にも人の移動も当たり前が変化する中で20年もキープできるものは少ない。
- 20年後何をする、どうするの前に、小浜として何を残したいか、という共通認識を持ち、社会が変わっても残すべき、という指針や軸があれば、時代が変わっても色あせない新駅になるのでは。
- 例えば、今の中高生が20年後に働くとき、何が小浜市に残っていたらうれしいか、その声が重要。20年後の小浜市で残してほしいこと、小浜に残るという要素を集め抽象的な概念を作ること必要。

【委員】

- 市民ワークショップも（市全体で考えると）限定的な声であると思うが、今の結果でかなりキーワードは出ていると感じる。あとはどのように意見の濃淡をつけて計画をつくるかである。
- 子どもたちの意見を聞くのは重要だが、計画に反映するだけでなく、関心を持ち続けさせていくようにすべき。そのような仕組みが必要。
- 全国的な人口減少社会の中で、定住人口は増えない。増やすとしたら交流人口・関係人口。その場合、どこから人を誘導するかが重要。嶺南地域の中で人を呼び込んでも意味がない。
- 人口を目標として設定し、どこから人をもってくるか、ターゲットを見定めることが重要。
- 小浜の住民は潜在的な意識として生活満足度が高いと感じる。そこが大事にすべきことではないか。情報発信し続ける。情報発信の方法を変えるととっても効果は限定的。新幹線が来ることの期待を利用して、将来的な満足度を継続的に地域住民に定着させていくか。小浜にとっての大事なことを再確認しながら新幹線のインパクトを考えるのが本委員会だと思う。
- 愛着、誇りのある資源をもっており、生活文化の中に無意識に入り込んでおり、大事にする必要がある。

【事務局】

- J Rの小浜線と新幹線の接続について。利便性を考えれば、新幹線新駅に接続する形で在来線も新駅を設置すべきだと市としては考えている。ただし、現在J Rと協議をしているわけではなく、全くの白紙の状態である。今後、整備委員会で今国会中にルートが決定する。より現実味を帯びてくるなど、様々なことが公表されたのちに、J Rに声掛けをしていく想定。
- 20年後のことを考えるのは難しいという意見もあった。その中で小浜市の本質を大事にしながら新しいことを考えていく。一方で、整備事業を進めると、開業が20年後だとすると、その10年前～15年前に整備計画を作り事業を進める必要があると認識していただきたい。
- そのため、今回の基本計画は重要なものである。

5.『小浜市新幹線駅周辺エリア基本計画』の検討について

<質疑応答>

【委員】

- コンセプトは、話し合いをしていく中で決めていくものだと考えている。どのような形で小浜を良いと思っているかを出し合い、段階的にデベロッピングしていくもの。
- SDGs、持続可能な発展目標と言われるように、発展させて形ができる。コンセプトは最初からフィックスされているわけではなく、みんなで話あって残さなければならないものを決めることが重要。小浜ならではの持続可能性をどう考えるかが重要。

【委員】

- この委員会でコンセプトは固めるのか。

【事務局】

- そうである。

【委員】

- 3つの視点で良いのかということについてご意見があれば

【委員】

- 嶺北との関係。一つの県がこんなに分断されているところはないのではないか。交通機関がなく、学校の部活で運動部が試合で福井市に行くのに疲れ果てている。視点②の広域的な～の中に、嶺北とのつながりも入れると良い。現在は、嶺北の人はこちらに来ない。

【委員】

- 視点③について、小浜市にはかつて3駅構想があった。まちの駅、海の駅、道の駅。関西、北陸との接点、玄関口としてどう考えるか、それに伴い交通網の形成を考えることが重要。ここをしっかりと考えられると良い。

【委員】

- 方向性について良いと思うが、例えば周辺と連携をするとどうなるのか、イメージがわからない。例えば、京都や関西圏との連携によって田舎体験ができるなど、駅の効果をイメージしやすい方向性だと良い。

【委員】

- 視点②、京都との結びつきだけでいいのか気になる。嶺北や関西も、意見交換で取り入れる場が重要と感じた。そこにいる人との意見交換も重要だと思う。

【委員】

- 大阪の人の意見も聞くべきということか。事務局でも検討してみしてほしい。

【委員】

- 越前たけふ駅では、二次交通としてのシャトルバスがなぜ終了したのかを知りたい。その部分を検討しないといけないのではないか。

【委員】

- 正確かどうかは分からないが、人の動きとして、敦賀から、新幹線でなくはびラインで武生駅に向かう層がいる。そのため、越前たけふ駅を使うビジネスマンがいない。また、観光客は新幹線駅から、中心市街地ではなく別のところに行く。そのため、二つの駅が結びつく要素が今のところなく、分断が生まれている。小浜ではどうかを考えることが重要。

6. 今後のスケジュール

【事務局】

- 次回、第3回委員会を6月に開催予定。
- 4月から5月にかけて、小学生、中学生、高校生、大学生へのアンケートおよび第2回の市民ワークショップを開催し広く意見を集める。
- 第3回では、新まちづくり構想の改定素案について検討いただくほか、整備コン

セプトについて協議いただく予定。日程等は後日案内する。

以上